【小学校・３年・国語・すがたをかえる大豆】

育成を目指す資質・能力

B４（表現・制作）　C１（発表や話合い）

事例の分類や事例の説明の順序における筆者の意図や工夫について理解することができる。

ＩＣＴ活用のポイント

【活用したソフトや機能】　文書作成ソフト

文書作成ソフトに自分の考えを記入させることで、進行具合を把握でき、発表の際に考えを共有できる。

学習の流れ

- 簡単なクイズを行い、本時のめあてを共有する。
- 一番すがたをかえたのはどの食品か考え、個人でスライドを作成し、グループごと発表する。
- 食品の説明する順番（構成）について考える。
- 筆者の説明の仕方についてまとめ、学習の振り返りを行う。

事例の概要

本実践は、本文を読んで見つけた説明の仕方の工夫を生かして、身近な食材について調べて説明する文章を書くことを言語活動として設定した事例であり、本時は、事例の説明の順序における筆者の意図や工夫について児童に考えさせる授業であった。

筆者の意図や工夫を考えさせるための手段として、子供たちは大豆が一番姿を変えた食品をそれぞれ１つ選び、その理由を含め文書作成ソフトで作成した。

文書作成ソフトには、すべての食品の画像が事前に貼り付けられてあり、児童は選んだ写真以外を削除し、理由を入力するだけでシートが完成するため、短時間で作成することができた。

それぞれの食品を選んだ人数や、誰がどの食品を選んだかが、教師用の端末から一覧で把握できるため、選んだ食品ごとに、教師の指名によりその理由を発表することができ、相違点や共通点を確認することにつながった。

最後に、選んだ人数が一番多い食品を、最後の説明にすることを問うことで、説明の順番における筆者の意図を考えさせた。

【小学校・３年・国語・すがたをかえる大豆】

【事例におけるＩＣＴ活用の場面①】

【事例におけるＩＣＴ活用の場面②】

ＩＣＴ活用のポイント

本授業では、本時のねらいに迫るために、さまざまな場面でＩＣＴを効果的に活用した。

まず、導入場面で、大型提示装置を使って、本時の展開につながる簡単なクイズを行い、児童の意欲を高めることができた。

次に、一番姿を変えたのはどの大豆かを個人で考えさせる際に、文書作成ソフトのフォーマットを児童に配付した。児童はフォーマットの中に貼り付けてある食品の画像の中から１つを選び、その食品を選んだ理由をタイピングした。簡単な操作で自分の考えを表現できるため、時間短縮にもつながった。また、教師側の端末から、児童の進行具合が一目で把握できるため、つまずきのある児童を瞬時に把握し、適切な支援を行うことができた。

児童の発表の際には、児童が作成したシートを大型提示装置に映し出すことで、発表の際の補助としても効果的であった。

児童の端末の状況を常に把握できるため、教師による意図的・効果的な指名を行うこともでき、それにより児童の考えを深めることにつながっていた。

ＩＣＴ活用事例　Ｂ４（表現・制作）　ＣＩ（発表や話合い）

小学校３年・国語　「すがたをかえる大豆」

使用機器：タブレット、大型提示装置　使用アプリ：文書作成ソフト

〈ＩＣＴ活用のポイント〉
①事前に用意したフォーマットを用いて、効率的に自分の考えを表現することができ、発表の際にもそれを基に考えを共有することができる。
②学習支援ソフトにより、児童の進行具合を把握することで、意図的・効果的な指名を行い、児童の考えを広げたり、深めたりすることができる。

１　単元の目標

ＩＣＴを効果的に活用することによって、事例の分類や事例の説明の順序における筆者の意図や工夫について理解することができる。

２　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使っている　（(2)イ） ②幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。（(3)オ）	①「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） ②「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。（C(1)ア）	①積極的に説明される内容とそれを支える事例との関係などについて叙述を基に捉えたり、それらを明確にして書き表し方を工夫したりしようとし、学習の見通しをもって、文章の説明の工夫を見つけてそれを生かして書こうとしている。

３　単元について

本単元は、例の書き方に着目して「すがたをかえる大豆」を読んで説明の仕方の工夫を見つけ、「食べ物のひみつを教えます」では、それらを生かして自分が選んだ身近な食材について調べて説明する文章を書くという構成となっている。

児童が活動の中で主体的に学習していくことができるように、「一番すがたをかえたのはどの食品か」「説明の順番を入れ替えても良いのか」などと発問し、筆者の工夫を根拠と理由を挙げて答えられるようにするための工夫として、ＩＣＴを効果的に活用することを目指した。

具体的には、プレゼーテーションソフトを活用して、児童の考えを共有することで、児童の考えを広げたり、深めたりするとともに、筆者の説明の工夫を捉えることを目的として本時の授業を設定した。

4　指導と評価の計画（１５時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	①単元扉から、文章の内容を想像する。 ②「すがたをかえる大豆」を読み、大体の内容を捉える。 ③「３－２食べ物事典」を作ることを知らせ、学習計画を考える。	①大豆の加工食品の実物や写真などを提示しイメージをもたせる。 ③単元の後半についても、おおまかな流れを確認して、「読むこと」から「書くこと」へつながる意識をもたせる。「３－２食べ物図鑑」を作成するための学習計画を児童に考えさせる。	［主体的に学習に取り組む態度①］ 発言・記述 ・単元全体の学習の流れを理解し、学習の見通しをもっているかの確認。
2	④段落分けを確かめながら文章全体の組み立てを捉える。 ⑤「中」で挙げられている事例を整理する。	④P48 1 を確認して、各段落の役割を押さえ、「初め」「中」「終わり」に分けさせる。	［知識・技能①］ 記述 ・国語辞典を活用して、本文中の語句を調べ、語彙を増やしているかの確認。
3	⑥大豆に手を加えるときの言葉を調べて意味を確かめる。 ⑦文章の説明内容に合った「問い」を考えさせる。	⑥「まいごのかぎ」で行った、言葉調べを想起させ、個人ではなく、クラス全体で語彙を増やしていく。 ⑦「問い」について考えることで、文章全体の段落の中心を捉える。	［思考・判断・表現②］ 発言・記述 ・段落相互の関係に着目しながら、説明される内容とそれを支える事例との関係などについて、叙述をもとに捉えているかの確認。
4	⑧事例の分類や事例の説明の順序における筆者の意図や工夫について、考える。	⑧使われている言葉に注目しながら、各段落の大事な文や段落の順序性を考えさせる。	
5・6	⑨これまでの学習を踏まえ、筆者の説明のしかたの工夫をまとめる。 ⑩他の食べ物を扱った本を読み、内容や説明の工夫について感想を伝え合う。	⑨今後の学習で説明する文章の書き手になるという意識をもたせたうえで、説明の工夫をまとめさせる。 ※本単元だけではなく、「こまを楽しむ」で作成した「あったらいいなこんなこま」「仕事のくふう、見つけたよ」で作成した「知らせたい！この仕事！」などの成果物を用いて、文章の読み方・書き方を想起させる。	
7	⑪これまでの学習を振り返る。	⑪P50「科学読み物での調べ方」を参照し、本を活用して調べる方法を知ったり、端末を用いてインターネットで調べたりする方法を考えさせる。	［主体的に学習に取り組む態度①］ 発言・記述 ・積極的に説明される内容とそれを支える事例の関係に着目し、筆者の説明のしかたの工夫を見つけようとしているかの確認。

8 ～ 10	⑫これから学習する内容に見通しをもち、今後の学習計画を立てる。 ⑬食材を決めて調べる。 ⑭調べた内容を整理する。	⑭調べる活動に入る前に、自分の知っていることと知らないことを整理して、調べる内容や方法を考えさせる。	［知識・技能②］ 観察・記述 ・調べるために本を活用し、本が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいているかの確認。 ［思考・判断・表現①］ 記述 ・説明する内容とそれを支える事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫しているかの確認。
11 ～ 13	⑮組み立てと例の書き方を考える。 ⑯文章の下書きをする。 ⑰清書をする。	⑯「すがたをかえる大豆」で見つけた説明の工夫を取り入れられるよう、掲示物などを活用する。 ※8 時間目で使用したセンテンスカードを掲示し、筆者の説明の工夫を想起させる。	
14 ・ 15	⑱友達と文章を読み合い、感想を伝え合う。 ⑲単元の学習を振り返る。	⑱互いに読み合い、説明のしかたと内容の両面から感想を述べさせる。	［主体的に学習に取り組む態度①］ 発言・記述 ・積極的に事例の書き表し方を工夫し、食材について説明する文章を書こうとしているかの確認。

5　ＩＣＴの効果的な活用について

本時においては、（1）導入時の大豆クイズ（2）展開時のスライド作り（３）自考の時間の進行具合の把握（４）児童の発表の際の提示（５）ゆさぶり発問時のスライド提示においてＩＣＴ機器を活用した。

（1）の導入時の大豆クイズでの活用では、大型提示装置にクイズを映し出し、児童の視線を 1 箇所に集めることができた。本時の展開に繋がるクイズを行い、児童全員の土台を合わせた状態で本時の展開に進めることができた。

（２）の展開時のスライド作りでは、事前に用意したスライドのフォーマットを作成する活動を行った。児童はスライド内に貼り付けてある食品の画像の中から 1 枚選び、その食品を選んだ理由をタイピングした。1 つの画面の中に、児童のやらなければいけないことと、全ての食品の画像が貼り付けられていたことで、教科書のようにページをめくりながら考える必要がなくなり、思考が途切れることがなかった。

（３）自考の時間の進行具合の把握では、教師用の端末から児童の進行具合が一目で把握できるので、つまずきのある児童を瞬時に把握し、適切な支援を行うことができた。

（４）児童の発表の際の提示では、児童が作成したスライドを大型提示装置に映し出し、発表の際に活用した。発表を聞いている児童は、児童の声と提示資料両方から情報を得ることができたので、発表に対して聴き入ることができ、自分の考えとの相違点について深く考えることができた。

（５）ゆさぶり発問時のスライド提示では、筆者の国分牧衛さんが児童に言葉を投げかけている様子を提示した。普段から筆者を意識させたり、作品の読み方を意識させたりした授業展開をしているが、

今回初めてこのような提示の仕方をしたところ、児童の発言・ノートから「国分さんは～」という意見が多く見られ、教材と深く向き合うことに繋がった。

一斉提示、考えの作成や一覧化、プレゼン場面の活用など、コミュニケーションの種類や形態に応じ、ツールとして活用することができた。特にスライドを介し、一人一人の児童が、自分自身の考えに基づいて「情報を作る」ことができ、交流場面に大きな可能性を感じることができた。今後更に発展し、児童同士が作った情報を整理・比較・検討し、より深い学びへ繋げていきたい。

6　評価の実際

【思考・判断・表現②】「読むこと」において，段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えている。（C(1)ア）

【思考・判断・表現②】は、学習課題として示された「説明の順番を入れ替えても良いですか？」という発問に対して交流した上で、自分の考えをまとめたノートの記述内容から評価した。

ここでは、本時の展開部分で考えた、「私が思う一番すがたをかえている食品」でクラスの友達が多く選んだものを、既習の説明文教材に触れながら、最後に説明した方が良いのではないかと発問し、児童の様子を観察した。その結果、段落相互の関係や考えとそれを支える理由や事例との関係、また筆者の意図を想像し、理由を明確にしながら、説明の順序の大切さについてノートに記述している児童を「おおむね満足できる」状況（B）とした。

具体的には、児童１は図１のノートに、叙述を基に筆者の意図を想像し、説明の順序の大切さと結び付けて書いている。また、学習感想にも、筆者は読者を意識して、意図的に説明の順番を考えていることや、自分達が作る「３－２食べ物図鑑」にも学んだことを生かしていきたいという記述が見られた。

段落相互の関係、考えとそれを支える事例との関係について、叙述を基に捉えていると判断し、「おおむね満足できる」状況（B）と評価した。

一方、段落相互の関係や考えとそれを支える理由や事例との関係、また筆者の意図を想像し、理由を明確にしながら、説明の順序の大切さについてノートに記述できなかった児童を「努力を要する」状況（C）とした。そのような児童に対しては、白板に貼ったカードを移動してみせ、この食品が最後に説明されたらどうか、この食品が最初に説明されていたらどうか、など実際に移動した時に感じる違和感を感じさせた。

また、再度教科書に戻り、前時までに学習していた接続語に着目させたり、その段落の要旨をまとめた活動を思い出させたりした。

本学級の実態としては在籍 27 名中（B）と評価した児童 24 名（C）と評価した児童 3 名という実態だった。
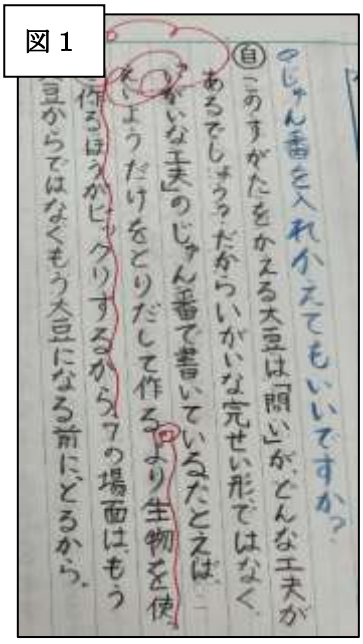
図１